

『菅家後集』所載 「偶作」作品考

513 偶作

本文

- ・ 病追衰老到
- ・ 愁趁謫居來
- ・ 此賊逃無處
- ・ 觀音年一廻

平仄

※脚韻は上平声 灰韻。韻字は「來・廻」

訓読

- ・ 病は衰老を追ひて到る
- ・ 愁は謫居しながに趁ひて來る
- ・ 此の賊 逃るるに處なし
- ・ 觀音 念ずること一廻

通釈

・ 人間が生きて行く上で逃れられないもの一つに「老い」がある。若き日の活力は老いと共に削り取られ、こ